

平成27年度第1回木更津市郷土博物館金のすず協議会会議録

- 1 日 時 平成27年4月28日(火) 午後1時30分～4時
- 2 場 所 木更津市郷土博物館金のすず 多目的室
- 3 出席委員 委員長 中村哲委員長
委 員 藤浪弘美委員、荻野敬次委員、圓谷加陽子委員、
関口明委員、高橋めぐみ委員
- 4 出席職員 高澤教育長、鹿間教育部長、齊藤教育部次長、今関文化課長
石井館長、半澤副館長、稲葉副主幹、伴主査、井上主査、多田主事
- 5 傍聴人数 0名
- 6 議 事
 - (1) 平成26年度下半期事業報告について
 - (2) 平成27年度事業計画について
 - (3) その他
- 7 企画展見学 企画展「請西藩林家が遺したモノ」
- 8 議事内容

事務局(稲葉)：ただいまより、平成27年度第1回木更津市郷土博物館金のすず協議会を開催いたします。

本日は、6名全員のご出席をいただいておりますので「木更津市郷土博物館金のすず協議会運営規則 第8条」により会議は成立しております。

また、「木更津市審議会等の会議公開に関する条例第3条」に基づき、本会議は一般公開となっておりますが、傍聴人は0人です。

それでは、会議開催にあたり、木更津市郷土博物館金のすず協議会の中村委員長に、ご挨拶をお願いいたします。

中村委員長： ～ 挨拶 ～

事務局(稲葉)：続きまして、今年3月31日付けで初谷前教育長が退任され、4月1日付けで高澤新教育長が就任されましたのでご紹介いたします。併せまして、高澤教育長よりご挨拶申し上げます。

高澤教育長： ～高澤教育長挨拶～

事務局(稲葉)：それでは、会議次第によりまして議事に入らせていただきますが、運営規則により中村委員長に議長をお願いいたします。

～中村委員長 議長席へ移動～

中村委員長： 議事に入ります。それではまず最初に「平成26年度下半期の事業報告について」事務局の方から説明をお願いします。

事務局（半澤）： それでは「平成26年度下半期の事業報告について」を説明いたします。

～平成26年度下半期の事業報告を説明する～

中村委員長： 有り難うございます。それでは何か、ご意見ご質問がございましたらどうぞ。国宝へのスケジュールはどうなっていますか。国宝指定の取り組みは。

事務局（稲葉）： 文化庁からの指示で一度、須恵器と土師器についての台帳を整理したところです。その時に、文化庁にも来ていただいて、これで良いだろうと1回なったのですが、実は昭和50年代ぐらいに文化庁の監修で、国宝重要文化財という写真集が出ていまして、それに載っているものをまず優先しないとイケないということになりまして、改めて台帳を作り直しております。それで、今回、先週、完成しましたので、今後またそれについて指示を仰ごうと、今県の文化財課等々協議をしているところです。それから、今回皆さんのお手元に金鈴塚古墳研究第3号をお配りいたしました。その中で、単龍の大刀については、それは少なくとも日本には一つしかないんですという事と、今回に調査で、成分分析から日本のものでもないし、中国大陸のものでもないし、おそらく百済で作られたものだろうということが分かりました。それと繊維のことについて、澤田むつ代さんという東京国立博物館で、正倉院とか東大寺の繊維関係をやっている、かなり有名な方ですが、その方が、いろいろ繊維について、調査をしていただきました。金鈴塚の中では金糸、金の糸ですね、いっぱい出ているんですがその中に芯糸に絹が残っているのが、全国で金鈴塚だけということが分かりました、それはまず一つの画期的な発見になっております。それと図版の70でしたか、澤田むつ代さんの頁は忘れましたがそこに、金属小片ということで、だいたい4センチぐらいの大きさのものですが、布の写真があります。頁数でいうと、59頁の図版の69というものなのですが、4センチぐらいの小さな金属小片ですがそれを拡大すると図72のような縁かがりということが分かりました。実際色は飛んでしまっているのですが、白っぽいもの黒っぽいもの、あとこの写真には載らなかったのですが、茶色っぽいものもあります。この微細なわずか4センチのもの、微細なものからも新発見があるということで、そういう調査を今後も続けていきたいというふうに考えております。博物館としましては、ともかくこのように新しいこと分かりました、このように新発見がありますということをはたすら出していき続けたいと思っております。

中村委員長： 積極的にやっておられて、敬意を表します。ただ、前もちょっと言ったと

と思いますが、並行してやれないのですか。国宝としてね、その調査の完璧を待って指定しますという感じがおきています。後から追加指定していけば良いし、ある程度の固まりができたときに、国がやりますよっていうふうに、前に言ってたから、県の文化課もするって言っていましたから、もっと押した方がいいのではないか思うのです。そうじゃないと例えば歴博（国立歴史民俗博物館「以下 歴博と言う」）の研究者があれもこれもって追加で、研究が研究を呼んでね、研究だらけで終わってしまう可能性があるんですよ。

事務局（稲葉）：すみません。一つ肝心なことを忘れていました。共同研究の成果報告書を今年度原稿まで進め、来年度、歴博が中心になって刊行する予定でいます。それに併せて歴博でシンポジウムを開くという予定で進んでおります。

中村委員長：非常に順調にいけると思うのですが、市の金のすずのメリットも考えて、並行して早く国宝にしてもらおうということですね。今までの調査結果で発表してもいいし、歴博は歴博で、調査研究をしていますので。例えば日博協（日本博物館協議会）を使うとかね、そういうところで、機関誌に発表していくとか、指定までの途中経過とか、どんどんと、投稿していけば良いです、そうすると、それから繋がるし、どんどんやった方がいいと思います。これだけのネタを持っている博物館というのはあまりないんです。ネタというか財産を、木更津市も出していけばいいんですよ。歴博のいいようなお手玉にされないように、もっと積極的に出ていいような気がするのですが、一時はいいよって言ったんだから、だからあの時の口約束はどうしたんだと、ねじ込んでいって、それで、じゃあ私がああいうことしますよ、こういうことしますよとやった方がいい部分もあるし、一緒にやらなければいけないこともあります。

それから前も言いましたが、盤州干潟の特別天然記念物の指定、この2点は自然と歴史の町、木更津の財産です。三井アウトレットもできたけど、来る人たちに対するキャッチフレーズにするためには絶対必要だと思います。それで、三井アウトレットへ来て、太田山へ寄って遊べるようにするとか、例えば花、桜できれいにするとか色々な事業に繋がるようにしたら良い。このようにロケーションのいい博物館はそんなになんかと思いませんよ、そんな一機には出来ないけど、一つの切り口として協力体制を作っていけば、お金をかけなくても相当いい事業が出来ます。アピールすること、さっきの広報にしても一般紙に載っていないんだよね、普通の新聞三大紙とかテレビ局とかに投げ込みをやれば載せてくれます。それで、シリーズを組んでもらったり、そうするとすごい反応あるという気がするのですが、私はもったいないと思っています。国宝化と特別記念物、これだけの自然が残っています。どんなにお金（予算）を持っていても、財産のない市町村っていっぱいあります。そういった中で、金のすずは私は日本のトップクラスの財産持ちと思っています。ひとつ大変でしょうけど、言いたいことを言っていますが、お願いします。私等の孫子

のために。何か誇りになるようなものをひとつ、どんと進めて下さい。その他に何かございますか。

藤浪委員：それでは、今日載っていた新千葉新聞の記事ですが、おそらく皆さんも読まれているかと思いますが、郷土の文化の誇りを学ぼうという題名で書いてありまして、やはり色々地元ではこういう伝承場所があるし、それから君津地域4市の中には金のすず、袖ヶ浦市博物館、久留里城址資料館、富津市鋸山歴史遺産資料館など、ぜひまた出かけて下さいという社説ありましたけれども、やはり今日のこちらの半年間の行事をみて、例年感じるのはいくらだけのたくさんの行事を行なって、サークル活動、展覧会等たくさんやっておりますけど、やはりもうちょっと何か市にPRがほしいなと思います。確かに催し物のポスターが出る、或いは広報「きさらづ」とそういうものに出てまいりますけど、せっかくの郷土の博物館ですからできるだけ市民にご来場いただきたいし、また遠方からも来ていただきたい、例えば君津では3紙あるいは4紙、あるいは千葉日報あたりで、ニュースを出して貰うと、私は一味違うような気がするんですよ。ぜひ皆さんに足を運んでもらうためには広報だけで、それでおしまいではなく、こういうことをやっているんだという事を皆さんに知ってもらいたいと思います。ちょっとそれが今日の新聞で痛切に感じました。

中村委員長：ありがとうございます。千葉日報、NHKのニュースに載っちゃうような、ニュースで取り上げてもらうと、他の新聞が追っかけをするし、新聞のシリーズで載せてもらう、国宝への道とかいうかたちでね、向こう（歴博）がやるのはプレッシャーだろうから、タイミングでNHKを呼んで来てね、応援させちゃう。ニュースにする、文化事業としてではなく、こういうことやりますよと、そうすると、すごい盛り上がる、ニュースが一番、だからその時にNHKの誰か知らないとなれば知っていますから、県立博物館を頼ったっていいし、個別に頼ったっていいし、そういう形で、使えるものは使った方がいいですよ。ニュースはすぐ取材に来ます。そうすると、一般紙がすぐ追っかけてくる、そうすると、特別な週刊誌が来る。すごくいいですね。シリーズに載せてもらう方法もあります。ニュースで載せるというのも良いのではないですか。歴博と協力しないと勝手に出来ないでしょうけど、少しは金のすずの思う通りになるように、ひとつがんばって下さい。

事務局（半澤）：わかりました。有り難うございました。

中村委員長：次にまいります。平成27年度の事業計画について、事務局からお願いします。

事務局（半澤）：それでは、平成27年度の事業計画を説明させていただきます。

～平成27年度の事業計画を説明する～

中村委員長：ありがとうございます。引き続きなにかご意見ご質問はございま

いせんか。

荻野委員：前回の会議でもお願いしたと思いますが、博物館ですから、この施設の利用法として、木更津には美術館がないので、なんとか美術展の開催とか、確かに何回か木更津の収蔵美術、或いは書の展示会を行っているのですけれども、もっともっと外部に向けて、この施設を利用させていただくために、展覧会の開催等いかがですかとお問い合わせさせていただいたと思いますが、27年の事業は殆んど決まっているようですが、10番のその他の(10)として、ぜひ学校関係として、要するに子ども達の絵画の展覧会だとか、あるいは市の文化協会等いろいろな連携してもらって、市民展の開催をこちらでやるとか、何かそういった外に向けてこの施設を利用させていただくという働きかけはどうなんでしょうか。もし可能であれば調査をしていただいて、28年度事業の中にうまく組み入れていただければと考えています。私としては立場上この委員になっているんですけども、昔の美術館を創ろうという組織から来ていますから、そういったことを、ご検討いただければと思うんですけど、いかがでしょうか。

中村委員長：大変貴重なご意見ですが、いかがでしょうか。

事務局(半澤)：27年度については入ってはおりませんが、28年度の事業計画の中に組み込んでいけるような対策を……。すみません、ここは貸し館というのができないので、提供場所としては難しいですが、関係機関と協議しながら検討して参りたいと思います。

中村委員長：主催ならできるのですか。例えばね、市民展の事務局と金のすずが共同主催であればできるのですか。貸し会場じゃなくて。

事務局(稲葉)：その辺きっちり協議していかないと、できるかどうか即答できなくてはいけないんですけど、もともとここは基本、有料館で、無料の展示はよっぽどのがない限りしないということが原則になっております。市民が書いた画で、お金をとっていいのかという話は根本的なことで抵触してくるので、その辺については色々協議を重ねないと、すぐにできるというようなお答えはできかねます。

中村委員長：県立(博物館、美術館)でも同じようなことが起きています。いきなりできない、貸し借りできない、結局は共催にして、やっていけばできちゃう。それから今みたいに市民から直接館が金をとっているわけじゃなくて、方法はいくらかもあって、ある意味では実質貸し借りみたいな形なんだけど、主催は提携している市民展の事務局に払わせると、内容的には学校の先生も入れて事業計画立てる、そういうような形でもっていったら、来年度以降、そういうことを協議していくってことでどうですか。

荻野委員：そうですね、すぐやってくれってことじゃなくて、その他の(10)として、そういう調査、研究のもろもろの連携をとっていただき、前向きに検討していただければという次第です。

中村委員長：協議、検討という形でいいですね。

石井館長：今お話がありましたとおり、多少時間がかかるとは思いますけど、いただいた意見を中心にしてですね、館と関係者等で、十分な協議を重ねて、結論を出していきたいというふうに考えておりますので、しばらく猶予をいただければと思います。

中村委員長：昔みたいにするさくないんだよね。昔は、一律に頭ごなしにね、食堂で、お酒だしてはいけないとか、売ってはいけないとか、それが今は堂々とやっちゃってるわけでしょう。だから、時代の流れもあるしやり方もあるしね、職員もみんなもう退職して入れ替わってるんですよ。だから新しい頭脳で新しい経験になればできないことはないんです。時代に合わせた方が良いかも。よろしくお願いします。

関口委員：学校関係ということで、昨年度小学校が14校見学等で利用させていただいているんですね。ということは市内に小学校は19校あります。5校が使っていないということなんですよ。なぜ5校が使えないかという、それははっきりしていて、バスのお金がいろんな見学のことを考えると出し切れないとか、ですからやっているところはバスを使って何かと組み合わせで見学するようなコースができています。あるいは私どもの学校は歩いて来れますから、そういう学校は使えるんですね。なんとか生涯学習課とか管財課のバスとか、何か上手く利用すれば、市内の学校はどこかの学年で1回は来るという形にすれば、木更津市民の郷土博物館に対する認知度が広がる、そんなふうに考えると何かもうひとつ勉強をしていただいて、手立てがないかお考えいただけないかということです。以上です。

中村委員長：それは必要ですね、絶対機会均等ということも含めて、公用車があるなら、公用車を配置するようなローテーションが組めれば良いのですが。どうですか、検討しておいて下さい。

藤浪委員：まなび号使えますか。

中村委員長：前もって計画立てて早めに手を上げないと、借りられないんでしょう。そうすると、展覧会とうまく合致すると色々な問題が出てくるから、だから何か特別の展覧会だけじゃなくて、いろんな行事の中にどれか参加するようなカリキュラムがあればいいんじゃないですかね。

さっき県立中央博物館が出て言わなかったんですけど、自然系が無いんですよ、太田山は自然をかかえて非常に良いですよ。こんないいロケーションがあるところはありません。県立中央博物館の職員に自然系の人がいっぱいいるんですよ。例えば夏休みの宿題の相談会とか、そういうことも非常にいいし、あと、非常に人気のあるのが「きのこ」なんです。「きのこ展」みたいなことをやると、寄ってきてこれ食べられるのとか、これはどこに生えているんだとか、ものすごい人気です、長蛇の列になっちゃう。きのこはいいですよ、まずね、やってみると当たりますよ、そういう時に、新聞社を呼んじゃうんですよ。夏休みに、NHKとか。

事務局(稲葉)：2つ答えさせていただきます。まず生涯学習バスに関してなんですが、

学校には優先的には確か貸し出ししていない、というようなことだと思います。一度バス会社さんのバスを借りようと予算計上しようかと思ったのですが、博物館でそれをやるのは、どうなのっていうような話がありました。それで、計画段階で無しになったことがございます。2つ目ですが、実は先週土曜日に「フィールドミュージアム」ということで、太田山で「食べられる植物を探そう」という事業を実施いたしました。40名ほど来られたんですが、その中で一応こんな物は食べられるということで、実際に旧安西家住宅で、てんぷらにして食べました、結構好評でした。以上です。

中村委員長：はい、大いにやって下さい。というのは波岡小学校は協力できていますね、それから山の学校の関係で、三島のあたりにも県立中央博物館の職員もいっぱい来ているんですよ。中央博物館と一緒に連携すれば何か動いてくれる。彼らは足場が欲しいんですよ。フィールドが欲しいんですよ。連携すれば、こちらにしてくれるから、ちょっと相談して、もし希望だったら、繋ぎますから。

事務局（稲葉）：説明が不足で申し訳ないんですが、その時にですね、「ちいき新聞社」の方に来ていただきまして、近々に記事として、載るというふうになっております。それと、講師として依頼したのが「きさらづ文化財ガイドボランティアの会」の会員でもあります。県立中央博物館にかなり出入りしていて、この辺の植物分布とか、協力してくれている方をお願いしています。今まで太田山講座というのを年間を通じてやっていたのですが、とりあえず昨年度で終了しようということで、今後は「フィールドミュージアム」について、これから模索しながら事業を展開して行きたいと考えております。

中村委員長：全部、金のすずで、あれもこれもやろうと思ったら予算とか自分でできないから、その懐をねらっていったらいいんじゃないか。県立中央博物館とタイアップしてね、何かやる、そういうふうにしてうまくやれば、向こうも予算を出してくれるんじゃないかと思うんですよ。だから智恵出してやっていけば以外と大きな組織がのってくるんじゃないかという感じですね。よろしくをお願いします。

事務局（半澤）：県立中央博物館とタイアップというお話をいただきましたけど、企画展の中に巡回展というのがありまして、「房総のむら」をスタートに、巡回展「(仮称) 館山道の遺跡」を県内を巡回してやってもらうというのがあります。それも、県教育振興財団とタイアップして行なう事業です。引き続き県に協力すると共に、お願いしながら事業をやっていけたら良いと思います。

中村委員長：県立中央博物館が上に立って何かやるっていうんじゃないくて、横並びなんです。中央博物館がいろんな事業を展開したり色々な改革したりして広げたいんです。そこで、うまく合致し智恵を出し合えば、向こうの予算が大きいんだから予算も出してくれる。うまくドッキングできるんじゃないかと思います。こういう時代だから、色々な智恵とか、人脈とか作った方がいいです。人脈があればもう最後

までしがみついてね、変な言い方だけど。とにかく、なりふり構わずしがみついたら。そうして1回しがみつけばね、なんとか道が開けますから。大変でしょうがひとつお願いします。

中村委員長：それでは、平成27年度事業計画については以上で、よろしいですね。それではこれで終わります。

中村委員長：その他何かございますか。それでは、これで閉めさせていただきます。それでは事務局にお返しします。よろしくをお願いします。

事務局（稲葉）：本日は委員の皆様にはご多忙のところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございました。今後とも当館の博物館運営業務につきまして、よろしくご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。これをもちまして、平成27年度第1回木更津市郷土博物館金のすず協議会を閉会いたします。

なお、ただ今当館では、企画展「請西藩林家が遺したモノ」を開催しておりますので、お時間のある委員の皆様にはこれからご案内いたしますので、展示室の方へお願いしたいと思います。説明の方は展示を担当いたしました学芸員の多田がご説明させていただきます。またそれに併せまして市の指定となりました「灰釉双耳壺」と、8月に展示する予定の模型も見ることができますので、もしよろしければご案内いたします。ありがとうございました。

終了